

産業別四半期見通し調査結果 (2018年1-3月期見通し)

■ 県内産業天気図

◇ 2017年10-12月期の現況

➤ 全17業種中、「晴れ（好調）」が5業種、「薄日（順調）」が4業種、「曇り（普通）」が7業種、「小雨（低調）」が1業種となった。

◇ 2018年1-3月期の見通し

➤見通しは、「晴れ（好調）」が5業種、「薄日（順調）」が4業種、「曇り（普通）」が7業種、「小雨（低調）」が1業種となった。

天気図記号	2017年 7-9月期現況	2017年 10-12月期現況	2018年 1-3月期見通し
 晴れ（好調）	1 業種	5 業種	5 業種
 薄日（順調）	8 業種	4 業種	4 業種
 曇り（普通）	7 業種	7 業種	7 業種
 小雨（低調）	1 業種	1 業種	1 業種
 雨（不調）	0 業種	0 業種	0 業種

■ 1-3月期見通しのポイント

- 製造業では、国内外の設備投資需要の増加に伴い「工作機械」「半導体製造装置」「産業用機器」「電子部品・デバイス」「光学・計器」の5業種が「晴れ」を維持する見通し。また「自動車部品」「プラスチック製品」など2業種も「薄日（順調）」を維持する見込み。
- 非製造業は、「自動車販売」が、環境性能や安全性能の高い新型車に対する需要の高まりなどから「薄日（順調）」「やや上昇」、「公共工事」は建築工事の減少などから「曇り」「やや下降」の見通し。「大型小売」は「小雨（低調）」が続くとみられる。

照 会 先

一般財団法人 長野経済研究所
調査部（担当：桑井、久保田）
TEL：026-224-0501



<産業別天気図一覧(17業種)>

■調査内容：業界の「現況」、「見通し」は、県内の企業経営者が業界の景気をどうみているかについてアンケート調査とヒアリング調査をした結果を基に、当研究所が判断した。


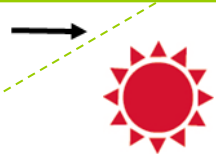
■調査期間：2017年12月中旬～18年1月中旬 ■調査回答企業：県内主要企業17業種の132社

業 種	前期 (2017年7-9月期)	今期 (10-12月期)	来期 (1-3月期)	
工 作 機 械			→	
半 導 体 製 造 装 置			→	
産 業 用 機 器			→	
電 子 部 品 ・ デ バ イ ス			→	
自 動 車 部 品			→	
光 学 ・ 計 器			→	
プ ラ ス チ ッ ク 製 品			→	
飲 料 製 造			→	
食 料 品 製 造			→	
機 械 器 具 卸			→	
大 型 小 売			→	
自 動 車 販 売			↗	
公 共 工 事			↘	
民 間 工 事			→	
旅 客			→	
貨 物			→	
ホ テ ル ・ 旅 館			→	


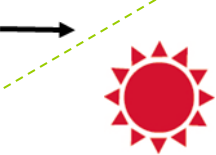
当研究所の注目業種

	1-3月期見通しの注目ポイント
<p>工作機械</p> 	<ul style="list-style-type: none">▶ 国内は、自動化・省力化のニーズが高まり、自動車関連や半導体関連を中心に引き続き幅広い業種で設備投資が継続することが見込まれ、機械需要は好調な見通し。▶ 海外は北米、欧州及びアジア向けで自動車関連を中心に引き続き堅調な需要が見込まれる。アジア向けのうち、中国では自動車関連に加え、IT関連を中心に高付加価値化・高性能化に対応する加工ニーズが高く、好調が続くとみられる。▶ 好調な需要見通しの中で、工作機械の基幹部品の供給状況も注視していく必要がある。
<p>電子部品・デバイス</p> 	<ul style="list-style-type: none">▶ 自動車向けは、国内外ともに安定した完成車需要のもとで、安全運転支援などで使用されるブレーキやステアリング制御装置をはじめ様々な分野で電装化が進むことから車載用電子部品の受注は順調に推移する見通し。▶ スマートフォン向けは、大手メーカーの新製品は高い受注水準が継続する中、総じては横ばい基調で推移する見通し。ただし、このところ受注が増加している中国系メーカーの需要が継続していくのか注視する必要がある。▶ 産業用機械などの製造装置に組み込まれる半導体・メモリーに関連する部品は、活発な設備投資需要を背景に高い受注水準が続くと予想される。


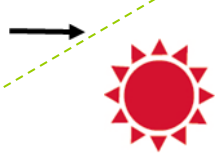
工作機械 : 需要は国内外で好調に推移

現況	国内は、自動車関連や半導体関連を中心に幅広い業種で機械需要が増加した。海外は、北米と欧州における自動車関連の日系企業の需要が安定していた。アジア向けは、中国で賃金上昇等から自動化投資が拡大しているほか、高性能な日本製へのニーズが高く好調だった。東南アジア向けは、タイやインドネシアで緩やかに増加した。一方で、工作機械の基幹部品であるリニアガイド（位置決め装置）が世界的な需要増加から調達難になりつつあり、一部の企業で納期の長期化がみられた。
	
見通し	国内は、引き続き多くの業種で設備投資が継続することが見込まれ、機械需要は好調な見通し。また、新たに始まる政府の投資促進策により、新規設備の引き合いの増加も期待される。海外は北米向け、欧州向けは自動車関連を中心に引き続き堅調な需要を見込む。アジア向けは、中国で自動車関連・IT関連を中心に好調が続くとみられる。東南アジア向けは底堅い需要が続く見通し。基幹部品の調達困難な状況は続くため、納期の長期化は避けられない見込みであり、受注機会を失う懸念もある。
	


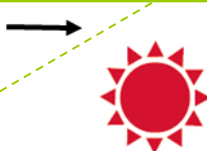
半導体製造装置 : 需要増加により好調な推移を見込む

現況	国内は、車載用電子制御装置向けのパワー半導体などの製造ラインで、設備の更新投資が堅調だったことから装置需要が増加した。海外は、半導体生産への投資が続く中国でデータセンター用サーバー向けのメモリーやIoT関連製品向けのセンサーの需要が高まっており、装置受注の伸びをけん引した。韓国や台湾もスマートフォン向けなどの半導体製造が好調に推移した。業界全体として、半導体製造装置の需要増加から各社の製造現場は高稼働を維持しているが、人手不足や部品調達の遅れにより生産が滞る企業もみられた。
	
見通し	国内は、車載用のパワー半導体向けの製造装置で、製品の高度化や生産の効率化に対応する機種を中心に堅調な需要を見込む。海外は、中国で国策による半導体関連の旺盛な設備投資が続くほか、韓国・台湾でもスマートフォン向けなどの半導体製造が継続する見込みであり、装置需要は好調を維持する見通し。業界全体では、需要増加に伴う製造設備や人材確保の強化、部品調達体制の見直し等が進むものとみられる。
	


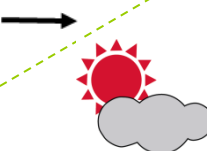
産業用機器 : FA機器を中心に好調に推移

現況	産業用のFA機器は、国内は自動車関連の設備投資が増加し、工作機械や産業用ロボット向けなどを中心に需要は順調だった。海外は、中国・韓国・台湾などでスマートフォン関連の半導体やフラットパネル等の製造装置向けが好調に推移した。車載関連機器は、国内はハイブリッド車などを中心に需要は安定し、海外は米国向けが底堅かった。水冷装置や空調機器は、省エネニーズに対する生産設備の更新需要などがみられた。給湯器やガスヒートポンプなどの住設機器は、リフォームや機器の入れ替えにより堅調な需要となった。
	
見通し	FA機器は、国内は工作機械や産業用ロボット向けなどで順調な需要を見込む。海外は、スマートフォンに加えてIoT関連製品の需要の高まりから、半導体やフラットパネル等の製造装置向けが好調な見通し。車載関連機器は、国内はハイブリッド車などを中心に安定した推移が見込まれ、海外は引き続き米国向けが需要をけん引するとみられる。水冷装置や空調機器は底堅い省エネニーズが下支えし、住設機器はリフォームや設備の更新需要により堅調な見通し。
	


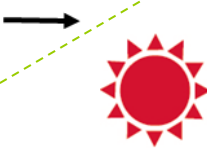
電子部品・デバイス：自動車向け、半導体関連で好調が続く

<p>現況</p>	<p>自動車向けは、モデルチェンジにより、緊急自動ブレーキや電動ステアリング制御など安全運転支援システムの搭載車種が広がったことに加え、国内・海外ともに完成車需要が安定していたことから、搭載される電子部品の受注は順調に推移した。スマートフォン向けは、北米の大手完成品メーカーの新型モデルがこの時期に発売となったことから高い受注水準を維持したほか、中国系メーカーからの受注も安定していた。産業用機械などの製造装置に組み込まれる半導体やメモリーに関連した電子部品の受注も高まり、全体で好調となった。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>自動車向けは、国内・海外ともに安定した完成車需要のもと、安全運転支援や自動駐車機能で使用されるブレーキやステアリング制御装置などで車載用電子部品の受注は順調に推移する見通し。スマートフォン向けは、昨年増加した中国系メーカーからの受注には不透明感もあるが、北米大手メーカーの新製品で高い受注水準が継続するとみられ、総じては横ばい基調で推移する見通し。産業用機械などの製造装置に組み込まれる半導体・メモリーに関連する部品は高い受注水準が続くと予想され、全体では好調を維持する見通し。</p>
	


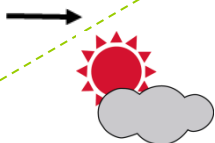
自動車部品：需要動向は国内外とも堅調な推移を見込む

<p>現況</p>	<p>国内は、新型車向けを中心に部品受注を伸ばした。特に軽自動車向けは、モデルチェンジ等に伴う新型車効果により需要が拡大した。海外は、米国で新車販売台数が前年を下回ったものの高水準を維持しており、北米向けの部品需要は底堅かった。東南アジア向けは、買い替え需要の回復により、タイなどを中心に受注は増加した。中国向けは、17年末での小型車の取得に対する減税策終了に伴う駆け込みや日系メーカーへの底強い需要から、部品受注は堅調だった。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>国内は、引き続き新型車向けがけん引し、部品需要は堅調に推移する見通し。中でも軽自動車向けは、新型車効果などから受注増が続く見込み。海外は、北米向けは、米国で完成車需要の鈍化が懸念されるが、販売台数は引き続き高水準を維持するとみられ、受注は底堅く推移する見通し。東南アジア向けは、買い替え需要の増加が続く見込み。中国向けは、日系メーカーへの需要は引き続き底堅く、安定した受注が維持される見通し。</p>
	


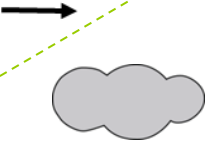
光学・計器：産業向けを中心に幅広い分野で好調が続く見込み

<p>現況</p>	<p>光学機器関連のうち、事業者用プロジェクター向けのレンズユニットは海外で好調だった。自動車向けは、新型車に対するLEDヘッドランプなどで、またスマートフォン向けは、製品の高機能化による高精度な部品の受注が増加した。また、半導体製造装置向けなど産業用が好調だった。計器関連は、中国・台湾など海外を中心に建機や半導体製造装置向けの受注が増加した。ガスメーターは、国内が交換サイクルにあたり順調だったほか、海外のインフラ整備関連の受注が増加した。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>光学機器関連のうち、プロジェクターのレンズユニットは、一部では在庫調整の動きもみられるが、海外を中心に短距離投影の機種等で高い受注水準が続くとみられる。自動車向けは、新型車のLEDヘッドランプなどを中心に、またスマートフォン向けは、高精度な部品を中心に順調な見込み。産業用は、半導体製造装置向けなど好調を維持する見込み。計器関連は、半導体製造装置向けを中心に順調の見込み。ガスメーターは、海外で緩やかに増加する見通し。</p>
	


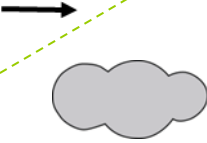
プラスチック製品 : 自動車関連の部品受注は順調が続く見通し

<p>現 況</p>	<p>自動車関連は、完成車需要が国内外ともに安定していたことや、国内の新型車への買い替え需要が続いたことなどから、自動車向け部品の受注も順調に推移した。スマートフォン関連は、北米の大手メーカー向けのコネクタで、新型モデルの受注が高い水準を維持した。容器類は、訪日外国人などに人気の高い国内メーカーの化粧品向け容器の需要が高まり、順調だった。OA・情報機器は、業務の効率化につながる法人向け複合機などの部品が底堅く推移した。</p>
	
<p>見 通 し</p>	<p>自動車関連は、国内外の安定した完成車需要に支えられ、人気車種を中心に部品受注はやや増加が見込まれる。スマートフォン関連は、北米大手メーカー向けで受注は緩やかに減少することが予想されるものの、中国メーカーなどからの受注増が見込まれ全体では横ばいの見通し。容器類は、化粧品向け容器の需要は引き続き高い状況が続く見込み。OA・情報機器は、複合機などの部品が前期並みで推移する見通し。</p>
	


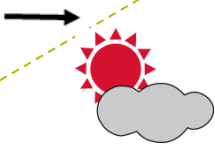
飲料製造 : 各種飲料とも需要は横ばい基調を見込む

<p>現 況</p>	<p>清涼飲料水は、気温の低下に伴いホット飲料の生産が増えたが、ミネラルウォーターや茶系飲料は夏場の天候不順による需要減の影響で、前年を下回る生産水準となった。果汁・野菜飲料も、リンゴやトマトなど原料不足の影響があり、生産量は伸び悩んだ。清酒は、年末の最需要期を迎え特定名称酒や発泡性のあるスパークリング酒は堅調だったが、普通酒は需要が減少傾向にあり低調だった。ワインは、醸造の本格化とともに消費が増え、観光需要も含めて需要は底堅かった。</p>
	
<p>見 通 し</p>	<p>清涼飲料水は、例年並みの生産水準への回復が予想され、ホット飲料も含め総じて堅調な需要が見込まれる。果汁・野菜飲料は原料不足による生産への影響継続が懸念されるが、需要は横ばい基調で推移する見込み。清酒は需要が徐々に落ち着く時期となり、普通酒の落ち込みを特定名称酒やスパークリング酒、年間を通じて需要が高まっている甘酒などで補っていく。ワインは人気銘柄を中心に安定した需要を取り込んでいく見通し。飲料業界全体では、ビンや段ボールなどの包装資材の価格上昇が見込まれ、収益を圧迫するとみられる。</p>
	


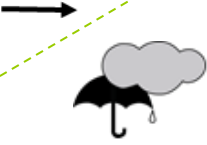
食料品製造 : ニーズを捉えた付加価値の高い商品の販売は堅調に推移

<p>現 況</p>	<p>味噌は、即席や減塩などの商品を中心に堅調だった。製粉は、年末の需要期を迎え、前年を上回る売り上げがみられたほか、原材料価格も安定して推移したことから収益環境は改善した。加工肉は、無添加など食の安全性を訴求する商品の販売を伸ばした。大豆関連商品、コンビニ向け惣菜、乾燥食品は、健康志向や時短など消費者のニーズを捉えた商品を中心に売り上げが堅調に推移した。一方、野菜など一部では原材料価格が上昇しており、収益に影響する企業もみられた。</p>
	
<p>見 通 し</p>	<p>味噌は、引き続き簡便さなどを訴求した商品を中心に堅調に推移するとみられる。製粉は、前年並みの販売量を維持することに加え、原材料価格が引き続き安定して推移することなどから収益の改善が続く見通し。大豆関連商品や乾燥食品は、健康や安全など消費者のニーズを捉えた付加価値の高い商品の販売が堅調に推移する見込み。加工肉は、堅調な販売量が維持されるものの、原材料価格の上昇が見込まれ、収益環境の悪化が懸念される。一部で原材料価格の上昇がみられており、収益の確保が課題となる。</p>
	


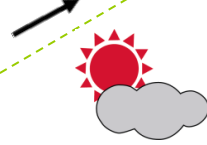
機械器具卸 : 機械需要は自動化投資ニーズの増加から順調に推移

<p>現 況</p>	<p>設備投資の増加を背景に機械設備の需要は、自動車関連や半導体関連向けを中心に順調に推移した。投資目的では、生産能力拡大や人手不足を補うための自動化が多くみられた。自動車関連メーカーを中心とした県内製造業の生産が増加したため、生産用機械に取り付ける切削用工具類等の消耗品の受注は順調だった。配線機器や分電盤などの電設資材の需要は、製造業の拠点整備など民間工事は堅調であったものの、公共工事は大型案件が少なく、全体では減少した。</p>
	
<p>見 通 し</p>	<p>機械設備の需要は、幅広い業種で自動化投資が続く見込みであり順調に推移する見通し。また、来年度の設備投資に向け政府の投資促進策に期待する声もあり、引き合いが増えることが予想される。ただし、納期が長期化している機種もあり、受注機会を逸することが懸念されている。消耗品は、企業の生産活動が高水準で安定推移するため順調な見通し。電設資材は、公共施設の新設等に関する工事件数は引き続き少ないとみられ低水準で推移する見通し。</p>
	


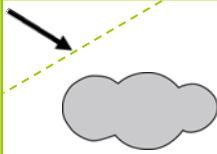
大型小売 : 食料品は堅調に推移するも、低価格志向は変わらず

<p>現 況</p>	<p>百貨店は、化粧品などの雑貨が堅調に推移したほか、食料品は物産展などによる売り上げが増加した。また、気温の低下もあり冬物衣料の一部は好調だったものの、衣料品全体では振るわない状況が続いた。スーパーは、価格高騰などから野菜の売り上げが伸び悩んだものの、生鮮食品全体の動きは底堅く、食料品は総じて堅調だった。また、鍋物関連商品なども売り上げが増加した。一方、安価な商品の売り上げが増加するなど消費者の低価格志向が続いているほか、人手不足に伴う人件費の増加など、収益環境は厳しいものとなった。</p>
	
<p>見 通 し</p>	<p>百貨店は、化粧品などの雑貨は売り上げ増加が予想されるほか、食料品も催事を中心に堅調な推移が見込まれる。一方、衣料品は春物衣料の売り上げが期待されるものの、客数の減少などもあり、総じて苦戦が予想される。スーパーは、消費者の低価格志向は根強いが、生鮮食品を中心に堅調な推移が見込まれるほか、総菜なども好調な見通し。ただ、野菜などの価格は引き続き高値圏で推移することが予想されるほか、従業員不足の問題もあり、販売への影響が懸念される。また、人手不足改善に向けた費用も増加する見通し。</p>
	


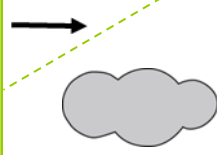
自動車販売 : 新型車を中心に引き続き堅調に推移

<p>現 況</p>	<p>新型車に対する需要の高まりなどから、新車販売は堅調だった。特に軽自動車は、モデルチェンジに伴う新型車効果もあり販売を伸ばした。また、安全への関心の高まりを背景に、安全性能を訴求する車種も好調だった。一方で、無資格検査問題の販売への影響がみられ、一部企業では販売量が前年を下回った。中古車は、新車販売の増加が下取り車の確保につながり、販売は持ち直した。輸入車は、価格帯の広がりから幅広い年齢層の需要を喚起し、売り上げを伸ばした。</p>
	
<p>見 通 し</p>	<p>年度末の需要期を迎え、新型車を中心に引き続き販売台数は堅調に推移する見込み。中でも、環境性能や安全性能など消費者のニーズを取り込んだ車種が販売をけん引する見通し。一方で、無資格検査問題に伴う販売への影響は引き続き懸念される。中古車は、下取り車の増加もあり販売の持ち直しが続く見込み。輸入車は、幅広い年齢層で需要が拡大しており、販売は引き続き堅調に推移するとみられる。</p>
	


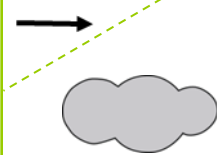
公共工事 : 道路などのインフラ関連工事は底堅いものの、全体としては弱含む

<p>現況</p>	<p>県の工事は前年を下回ったものの、国の三遠南信自動車道の建設工事、独立行政法人等のNEXCOによる高速道路の整備工事、市町村の道の駅や庁舎の建築工事などが工事量を押し上げ、全体では前年を上回った。ただ、現場代理人など一部職種の人手不足により、入札の見送りを余儀なくされ、新規受注を逃す事業者もみられた。また、資材価格の上昇により、事業者の入札価格が発注者の予定価格を超過するなど入札が不成立となるケースもみられた。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>国は三遠南信自動車道の建設工事、独立行政法人等は高速道路の整備工事を中心に底堅く推移する見通し。県や市町村は、インフラ関連の補修工事が見込まれるが、建築工事の発注は少ないとみられ、全体としては前期に対して弱含む見通し。首都圏での再開発や東京五輪関連の工事活発化に加え技術者の高齢化などもあり、人手不足感はますます強まるとみられ、新卒者や中途採用者の確保、定着に向けた取り組みが続く見込み。</p>
	


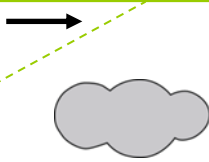
民間工事 : 製造業を中心とした建設投資が見込まれる

<p>現況</p>	<p>民間企業の建設投資は、製造業では機械や食品の製造工場、非製造業では福祉施設や再開発案件等の建設工事がみられ、全体の工事量は前期並みとなった。新設住宅は、持家で低価格商品の需要が引き続き底堅く、前期並みとなった。しかし、建設投資の大型案件は県外事業者が受注するケースもあり、恩恵を受けた県内事業者は一部にとどまった。また、鋼材など一部の資材に値上げの動きがあり、収益環境は厳しいものとなった。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>民間企業の建設投資は、製造業では食品や半導体関連の製造工場、非製造業では福祉施設や再開発案件等の建設工事が見込まれ、前期並みの工事量は確保するとみられる。新設住宅は、持家で低価格商品の需要が底堅く推移すると見込まれるものの、貸家は相続税の節税策需要に一段感がみられ、全体では前期よりも弱含む見通し。首都圏で工事が活発化していることもあり、資材価格や労務費は引き続き高値圏で推移するとみられる。</p>
	


旅客 : 外国人旅行者によるスキー関連の需要増加を期待

<p>現況</p>	<p>秋季行楽シーズンに入り、貸切バスの需要は高まったものの、ドライバー不足から受注を逃す事業者がみられた。高速バスの利用は前年並みだった。観光地行路線バスは、10月は天候不順により前年割れしたものの全体としては堅調に推移した。鉄道はイベント列車が好調だった。タクシーは、昼間利用は前年並みだったが、忘年会等による夜間利用が盛り上がり、に欠けた。バス、タクシーとも燃料価格が上昇し、各社の収益を圧迫した。新規採用者数が増加せずドライバー不足は改善されていない。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>スキーシーズンを迎え、外国人観光客の利用も見込まれることから高速バス、観光地行路線バス、および鉄道利用は堅調に推移する見通し。貸切バスは集客イベントが少ないことからスキー関連以外の需要は減少する見込み。タクシーは、昼間利用は前年並みだが、夜間利用は低調となる見通し。バス・タクシー業界とも、ドライバー確保のための人件費が増加することが懸念され、収益環境はやや悪化する見込み。</p>
	

貨物 : 製造業を中心とした好調な荷動きを受け、貨物量は堅調

<p>現 況</p>	<p>貨物量は全体として、前期に引き続き微増となった。荷種別では自動車部品が好調な動きを維持し、建機をはじめとした大型機械、設備投資にともなう工作機械は堅調な動きが続いた。</p>
	<p>一方で、燃料価格の上昇、人手不足による人件費増加や輸送能力の限界、庸車代の上昇が収益を圧迫した。また、大手運送業者の値上げや業界の人手不足を受け、荷主との適正運賃確保に向けた交渉が進んだ事業者もみられた。</p>
<p>見 通 し</p>	<p>全体の貨物量は堅調に推移する見通し。自動車部品、大型機械、工作機械を中心に製造業では引き続き堅調な動きが予想される。しかし、燃料価格や庸車代、人件費の上昇に伴うコスト増加により収益は減少する見込み。安定的な収益確保のため、荷主の在庫管理を含めた倉庫業務、荷物の選別業務、配送先での据付業務等の運送業への付加価値向上に向けた動きが</p>
	<p>これまで以上に進むとみられる。</p>

ホテル・旅館 : スキーや観光を目的とした外国人観光客の順調な利用に期待

<p>現 況</p>	<p>観光客による利用は、10月の台風による天候不順の影響を受けた地域もあったが、秋の行楽シーズンを迎え都市部、観光地ともに堅調であった。ビジネス客による利用は、都市部のホテルを中心に底堅く推移した。ブライダルは人気シーズンを迎え、おおむね前年並みを確保した。宴会部門は忘年会需要を受け、堅調な利用となった。順調な降雪により、スキー場周辺のホテルや旅館では、年末に雪不足となった前年以上の利用がみられた。</p>
	
<p>見 通 し</p>	<p>観光客は、スキーシーズンを迎え、スキー場周辺では年末年始を中心に順調な利用が見込まれるものの、その他の地域では大規模な集客イベントが乏しく、例年並みで推移するとみられる。ビジネス客は、活発な企業活動を背景として、都市部のホテルを中心に引き続き堅調な利用となる見通し。新年会や送別会などの宴会部門は、件数・規模ともに前年並みの利用を見込む。スキーや観光を目的とした外国人観光客は、オーストラリアやアジア諸国を中心に順調な利用が期待される。</p>
